

＜ 第48回高高神田会のご案内 ＞ 27. 10. 12

「第14回 二十六夜コンサート in 東慶寺」のご案内

～ バッハを楽しんだ後に二十六夜の月を愛でる会 ～

ずいぶんと秋らしくなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年は台風が早い時期に多く来たせいか、どうも秋になるのが速かった感じが致します。あの強烈な猛暑酷暑がいつの間にか去って、残暑もあまり感じることもなくちょうど良い季節の移り変わりの年でしたね。

さて、恒例の東慶寺コンサートのご案内です。

案内文の作成をさぼってしまいましたら、なんとあとひと月を切ってしまいました。「秋の東慶寺コンサート」のご案内を申し上げます。

第14回目となりました今回の東慶寺コンサートは、常任出演の

藤原清登さん（ベース：S47年卒）と

白川真理さん（フルート：S52年卒）に加え、今年のゲストとして

クラヴィコードの砂原 悟さんと

ギターの山村雅彦さん（S50年卒）をお迎えいたします。

砂原 悟さんは京都芸術大学でピアノの先生、それも准教授という地位にあられます。そういう意味では砂原先生とお呼びする方が適切ですね。

東慶寺コンサートではピアノがどうしてもネックになっておりました。持ち込むことが容易ではないのです。電子ピアノで代用していたこともありましたが、なんとなく味気なさが・・・

今回砂原先生が取り上げる鍵盤楽器は『クラヴィコード』という楽器です。

あまりなじみのない楽器だと思いますので、少し解説いたします。

『クラヴィコード』は18世紀ドイツを中心に普及しましたが、現在ではすっかり廃れてしまった楽器です。弦を下からタンジェントという金属の棒で突き上げて音を出す仕組みの打鍵鍵盤楽器です。その音量はとても小さいのですが、タッチによつての強弱はもとより、音程をゆらすヴィブラートのようなことも出来る、表情豊かな楽器です。チェンバロに比べると見た目にも質素で、殆んど装飾はされず、サイドテーブル程の大きさです。当時の音楽家というのは、現在のサラリーマンと同様、王族・貴族に仕えていた訳で、言ってみれば、貧乏だったのです。なので、値段の安い、そして音が小さく、小さな家に置いて練習しても大丈夫な、『クラヴィコード』が、音楽家にとっての練習用の楽器でした

砂原先生はクラヴィコードが演奏できる稀有なピアニストであり、今回は貴重な演奏であるのみならず、東慶寺本堂でその繊細な響きを堪能して頂けるものと存じます。ちなみに意外に小さな楽器であり、砂原先生自ら車でご持参さ

れるようです。興味津々です。

山村雅彦さんは我が高高OBにして、本業ではないものの、本格的にクラシックギターに取り組みられてこられたプロ並みの演奏家です。

昨年の本会では事情があつて、その腕前を残念ながら披露できませんでした。昨年は聴衆として参加しておりましたが、満を持して演奏家として登場です。

東慶寺本堂にクラシックギターが合うのは、常連参加の耳の肥えた皆様はよくご存じのことと思いますが、今回はバッハを中心とした演奏をお聞かせいただけるとのこと。期待が膨らみます。

今回のコンサートはクラヴィコードも含めて『弦』の競演ともいえます。

クラヴィコードはバッハが最も愛した楽器だそうですので、バッハのプログラムを聴けるでしょう。

上述のとおりギターでもバッハを予定しているとのことですので、フルートでもおそらくバッハが出てくるでしょう。

ここまで来るともしかしてベースでもバッハがあるかもしれません。

**ということで、今年の東慶寺コンサートの ご案内を申し上げます。**

開催日時 : 11月7日(土) 午後4時30分受付 午後5時開演  
場 所 : 鎌倉 東慶寺本堂 (JR北鎌倉駅より徒歩3分)  
鎌倉市山ノ内1367 Tel 0467-22-1663

舞台装飾照明担当主任 (S53 卒長尾みどりさん) の腕の見せ所ですね。

今年はクラヴィコード、クラシックギター、それにバッハですからバロック的な装飾が楽しめることとなりましょうからこれまた期待が膨らみます。

なお、当日の費用ですが、神田会ですので、関係者の皆様のご好意に甘えながらやっております。東慶寺の皆様や当日のパンフ作成は池上晴英さん(S45 卒) など、いろいろご協力を頂いております。

とはいえ、無償ということはできず、実費等の関係で、会費として一応、例年通り 8000円 (食事をされない場合は 5000円) をいつものようにお願い致します。

本当は1万円でも赤字なのですが、東慶寺の井上さん、出演者の方々、ステージデザイナー、池上さんと色々な方々のボランティア精神に甘えており、この金額でお願い致します。

今年もそんな皆さま方のご参加をお心から待ちしております。

高高神田会東慶寺コンサート世話役一同



## 第 14 回 東慶寺コンサート（11月7日 土曜日） お申込書

- 今回も先着順ということで受付をいたします。
- メール、FAX、郵便なんでも結構です。
- いつもの面々に連絡下さい。

FAX 送付先 03-5296-7678 岡崎 洋 okazaki@o2m-law.com

神田会 メーリングリスト でも受け付けます

- どうしてもコンサートのみ参加という方はその旨明記下さい。

### 第 14 回 東慶寺コンサート 参加申込書

氏名  
卒年

連絡先 電話  
ファックス  
メールアドレス  
住所

一緒に参加される方

- |    |     |
|----|-----|
| 1、 | ご関係 |
| 2、 | ご関係 |
| 3、 | ご関係 |
| 4、 | ご関係 |

FAX 送付先 03-5296-7678 岡崎 洋 okazaki@o2m-law.com  
神田会 メーリングリスト でも受け付けます。



さて、

11月7日は旧暦では9月26日です。

旧暦の26日となればあと三日もたてば新月・朔となります。

三日月の逆の下限の二十六夜月の宵ですが、この月がのぼり始めるのは深夜丑三つ時ですから、東慶寺コンサートの時刻には見るできません。

日本人はその風流故に月を愛でることをとても大事にしていました。

日によって出没する時刻が動き、月相が変化する。朔、三日月、七日月、弓張月、十三夜、待宵、十五夜、望の月、十六夜、立待、居待、寝待、更待、二十三夜などなど。

今はあまり聞きませんが、十五夜、二十三夜などとともに昔は代表的な「月待ち」が二十六夜待ちだそうです。

### にじゅうろくや - まち【二十六夜待ち】 (デジタル大辞林より)

江戸時代、陰暦正月・7月の26日の夜、月の出るのを待つこと。月光の中に弥陀・観音・勢至の三尊が現れると言い伝えられた。略して六夜待ちとも。

11月7日は旧暦ではちょうど9月26日ですのでまさに二十六夜待ちの日となります。

この日の月は夜中2時くらいに昇りはじめます。まさに丑三つ時ではありますが、コンサートがお開きの後にもここは是非鎌倉あたりに残っていただいて、二十六夜の月に三尊を拝みながら酒でも頂きたいところです。

神田会には数寄者があふれるほどいますので、ここはひとつ二十六夜待ちと洒落込んで、酒をもむのもよし、俳句をひねってみるのもよし、そうだ、連歌もありますねえ。翌日は日曜、翌日の予定がないのであればここはバッチリとタイミングが合いましたので、もし天気が良ければ鎌倉でとことん風流をしてみませんか！

高高神田会数寄者一同